

### 地域再生大賞

# 自然塾寺子屋(甘楽)を推薦

## 農村振興へ住民一体化

全国の地方新聞社と共同通信社が地域で秀でた住民活動を表彰する「第6回地域再生大賞」の本県候補として、上毛新聞社は2日までに、甘楽町で国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊の研修を受け入れており、住民や行政と一体となって国際交流や農村振興、定住・交流人口増に取り組むNPO法人自然塾寺子屋

(矢島亮一理事長を推薦した。

自然塾寺子屋は、青少年の健全育成や農村の原風景の保全、国際交流の推進、定住・交流人口の増加による農村振興を掲げ、2001年に活動を開始、03年にNPO法人に認証された。青年海外協力隊員が派遣前に技術補完するための研修事業をJICAから受託し、

これまでに約500人を送り出した。途上国からの外国人農業研修生も引き受けており、約200人を受け入れた実績を持つ。

農村に備わる「里山の魅力」を資源に、住民や行政とともに都市住民や学生、外国人らを積極的に招いて交流。人と人を結びつけて富岡甘楽地域の魅力をアピールするとともに、地域活性

化に取り組んでいる。国際協力活動の経験者が現地で学び感じ取ったことを、住民に伝え広める窓口にもなっている。この結果、同法人の活動を通じて地域の魅力に触れ、Eターンしてきた人が10人いる。

上毛新聞社の支社・支局が推薦した20候補から、社内選考委員が団体の実績、新規性、発展性を視点に選考した。

対象は地域の再生・活性化に取り組んでいる法人や住民グループなどで、全国の地方紙と共同通信社が都道府県ごとに原則1団体を推薦。有識者らでつくる選考委員会の書類審査や現地調査を経て、来年1月に大賞(副賞100万円)など各賞が決まる。